



日本プライマリ・ケア連合学会
東北ブロック支部 活動報告

発行人
支部長 矢島 恭一 (上田診療所)
事務局
〒999-8162 山形県酒田市上野曾根字上中割 73
TEL 0234-27-3306 FAX 0234-27-3308
mail:k-yajima@sea.plala.or.jp

ニュースレター No. 11 (2015. 12)

○第5回日本プライマリ・ケア連合学会東北ブロック支部学術集会報告

～連携して取り組む ケアの質の向上～

【全体会】 平成 27 年 9 月 26 日 (土) 14 時～18 時 場 所：ホテル辰巳屋

開会挨拶 福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座 主任教授 葛西 龍樹

東北ブロック支部長挨拶 医療法人宏友会 上田診療所所長 矢島 恭一

記念講演 『東北における課題と日本全国における課題に学会はどのように対応すべきか』

日本プライマリ・ケア連合学会 理事長 丸山 泉

シンポジウム 『のぞいてみよう、他職種のアタマのなか ～考え方の違いをケアに活かす～』

司 会 川井 巧 大原総合病院 内科部長

シンポジスト 猪越 江美子 星訪問看護ステーション

貝沼 勝敏 伊達すりかみ荘指定居宅介護支援事業所

佐藤 典子 桑折町地域包括支援センター

谷 佐和子 星訪問看護ステーション

渡邊 祥人 クオール薬局野田町店

豊田 喜弘 福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座/ほし横塚クリニック

【懇親会】 9 月 26 日 (土) 18 時 30 分～20 時 30 分 ホテル辰巳屋

【分科会・公開講座】 9 月 27 日 (日) 9 時～12 時 15 分 コラッセふくしま

ポスターセッション 5 階ロビー (9:00～12:15)

①認知症ケアの始まりと終わり 5 階小研修室 (9:00～10:30)

②どんな時に医師に連絡する？患者・利用者の状態が変化した時に気をつけること 5 階研修室 A (9:00～10:30)

③医学生・初期研修医のための総合診療スキルアップ講習会@ふくしま 5 階研修室 B (9:00～12:15)

④薬剤師が在宅訪問で苦労したこと 5 階小研修室 (10:45～12:15)

⑤ポケットエコーは聴診器の仲間・地域の味方。診断から判断へのパラダイムシフト。5 階研修室 A(10:45～12:15)

⑥一般公開講座 あなたやあなたの家族が病気になったらどうしますか 3 階企画展示室 (10:30～12:00)

○総合診療セミナー 秋 (あきセミ) 報告 (田中 淳一 東北大学病院 総合地域医療教育支援部)

日 時 平成 27 年 10 月 31 日 (土) ・11 月 1 日 (日)

場 所 東北大学 6 号館

東北大学では、現在、文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業として、「コンダクター型総合診療医」養成プログラムが採択され、リサーチマインドを持った総合診療医を養成することを目的として、日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラムを持つ宮城県内の医療機関と提携し、事業を進めている。今回、その一環として、将来東北地方で総合診療を志す学生・研修医の交流、また増やすことを目的にして、今回、「総合診療を知るセミナー 秋 (以下、あきセミ)」を行った。

昨年は、「学生・研修医のための総合診療セミナー in 東北」を開催し、それを発展する形にして、今回は、

学生・研修医部会の東北支部長の西岡君を中心にプロジェクトチームを結成し、彼ら主体で、運営を行うようにした。構成としては前年同様に、「学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー」で行われたセッションから厳選したものを再度、開催してもらう内容を中心にした。その他に、プロジェクトチームの発案で、福島県立医科大学の葛西先生にプライマリ・ケアの魅力を語ってもらう特別講演を開催したり、TED形式で、現場の医師・薬剤師の先生に、自分の経験・思いを語ってもらう場を設けたり、本吉病院の取り組みをもとに「多職種から考える総合診療」をワークショップ形式で企画したりした。そのような内容で、学生のネットワークで呼びかけた結果、今回は参加者が東北地方の学生を中心に60名強が参加した盛大なセミナーになった。

今回のセミナーは、2015年10月31日、11月1日の計2日間、東北大学医学部6号館で開催された。1日目の正午過ぎに開会式を行い、その中で、主催である我々の事業の「コンダクター型総合診療医養成プログラム」に関して、実務担当者の松向寺先生から、そのプログラムの概要を説明した。また、学生から、今回のセミナー内容に関して、動画を交えながら、紹介してもらった。また、アイスブレイクとして、互いの自己紹介を行うようなゲームを行い、参加者同士の緊張をほぐしてもらった。

その後、福島県立医科大学の葛西先生に「プライマリケアを探る旅」ということでご講演いただいた。プライマリ・ケアや家庭医療の背景、またその根底にある考え方に関して、分かりやすく説明いただいた。

その後、セッションを同時刻に2つ並列で開催し、最初は、「病院総合医と診療所の家庭のアプローチの違い」で、南三陸診療所の藤原先生、奈良県立医科大学の吉本先生に参加いただき、同じ総合診療マインドを持っていて、設定が診療所か病院でのアプローチの方法が違うことについて、解説いただいた。また並列して、「ロールプレイで学ぶ『患者中心の医療』第一歩」を、筑波から講師を招き、医療面接のロールプレイを混じえながら、患者中心の医療の考え方を学んだ。

その後、「inner consultation から学ぶ自己管理を重視した医療面接技法」では北海道家庭医療学センターから講師を招いて、医療従事者が遭遇するストレスをマネジメントし、患者に関わることができる医療面接の方法を学び、また「マンガで学ぶ緩和ケア～倫理的問題を考える」では、川崎市立井田病院の西先生をお招きし、漫画を題材にして、倫理的問題を題材にして、ワークセッションを行った。

その後、休憩を挟み、学生企画の「現場からのプレゼン」と題して、4人の方に登壇いただき、みちのく総合診療医学センターの本郷先生、最上町立最上病院の深瀬先生、やまと診療所登米の田上先生、ケア・カフェを主催している玉井先生より、それぞれの現場で行っている取り組み、学生に向けてのメッセージを伝えていただいた。今回、できるだけ、参加者に年齢の近い若手の医師からのメッセージを語ってもらうことを目的にし、キャリア形成を考える上で大変わかりやすかったのではないかと思います。また地域との取り組みとして、多職種が関わっている「ケア・カフェ」の説明を受け、地域との取り組みが見えたのではないかと思います。

その後は場所を変えて、懇親会を開催した。非常に多くの方の参加をいただき、会場内が窮屈である印象もありましたが、参加者、または講師や見学の先生と非常に熱心に、ぎくばらんに話している印象を強く感じました。

翌日は朝から、学生と気仙沼市立本吉病院の齊藤稔哲院長による「多職種から考える総合診療」というワークショップを行った。本吉病院で行われている診療内容、多職種連携をもとに、学生にどのようにすればいいか、小グループに分かれてもらい、考えてもらうことを行った。非常に面白いアイデアを出すグループもあり、非常に盛り上がった。

その後は最後のセッションとして、「もしふつうの研修医が家庭医療研修をうけたら～もしカテ～」では、三重より講師を招いて、ハリーポッターをイメージするような格好をしながら、家庭医療に必要なスキルを一つ一つ学んでいくようなセッションをしていただき、「『モヤモヤよ、こんにちは!』多職種で考える臨床倫理」では群馬から講師をお招きし、「臨床倫理4分割法」というツールを活用し、倫理的に悩ましい場面を提示して、その倫理的な問題を解決するようなワークセッションを行った。

最後に閉会式を行い、2日間行った内容に関して、学生が動画でまとめ、また今後開催される東北地方の家庭医療・総合診療の企画に関して、宣伝があり終了した。

○第14回 ER&GP カンファランス (研修責任者 齊藤 崇 秋田県総合診療・家庭医研修センター長)

日 時 平成27年12月4日(金) 午後5時30分から午後7時30分まで

場 所 秋田県総合診療・家庭医研修センター

対 象 秋田県総合診療・家庭医研修センター内外の学会専門医 研修プログラム参加者、認定医、認定薬剤師、
ならびに初期研修医、医学生を含むすべての医療者(年4回開催)

特別講演Ⅰ 17:30～

「病院総合医の役割(課題)」 自治医科大学地域医療学センター 三瀬 順一

特別講演Ⅱ 18:40～

「何故、病院総合医が必要なのか」 福井大学地域医療推進講座 寺澤 秀一

○第3回 宮城プライマリ・ケア研究会 (研修責任者 小幡 篤 みちのく総合診療医学センター)

日 時 平成28年1月9日(土) 午後2時30分から午後5時30分まで

場 所 TKP 仙台カンファレンスセンター4階 カンファレンスルーム4A

開催者 宮城プライマリ・ケア研究会

共催 / 「コンダクター型総合診療医」養成プログラム 後援 / 東北大学病院 総合地域医療教育支援部

発 表 「ポートフォリオ発表」

講演① 「家庭医・総合診療医に役立つリハビリテーション(仮)」

坂総合病院 リハビリテーション科 科長 藤原 大

講演② 「最新版 日本老年医学会 高齢者の薬物療法ガイドライン2015(漢方薬編)を考える」

東北大学病院 漢方内科 准教授 高山 真